

あっ! そう!

令和4年10月

麻生支部授業研究会

9月21日(水)に虹ヶ丘小学校にて麻生支部授業研究会が行われました。ご多用の中、多くの方にご参加いただきありがとうございました。

研究協議では、多くの方から意見や感想をいただき、活発な意見交流ができました。話題になったことや意見・感想をまとめてみました。

研究協議

○意見・感想

★授業者より

《 3年生 走・跳の運動 高跳び「頂き目指して記録に挑戦!1・2・3!」 授業者 大津 雄太 先生 》

○場の設定をすることで、わかりやすく、活動しやすいと感じた。

○各自で紅玉を1つずつ目印として置いたり、ゴム紐に筒形の緩衝材を取り付けたり、用具の工夫がよかった。

○タイムシフトカメラの活用として、スロー再生や追っかけ再生の機能があれば、さらによいと感じた。

○子供同士の見合い教え合いや声かけが活発で、友達の意見を受け入れることもできていた。

○振り返りをGIGA 端末(ジャムボード)で行うことで、一目でわかり、よかったと感じた。

○「1・2・1・2・3!」のリズムの声かけが定着していた。「何度も、気持ちよく」を目指すすよと感じた。

★陸上の楽しさを「記録を伸ばすこと」と捉え、授業を進めてきた。なので、黙々と取り組んでいてよいと考えており、その後、子供たちがやっていく中で、自然と伝え合ったり関わり合ったりしていこうと考えていた。

《 5年生 器械運動 マット運動「マットの達人!」

授業者 中曽根 央純 先生 》

○子供同士の伝え合いがもう少し見られるとよかったと感じた。

○安全面の配慮が必要だと感じた。発展技に取り組む子供たちもいて、危険だと感じた。

○場が取り組む技ごとになっていたのも、自然と課題に近い子供同士が側にいる形になっていてよかった。

○「予備的な運動」がテンポよくできていて、よいと感じた。BGMも効果的だと感じた。

○一つ一つの技の指標があるとよいと感じた。(“壁倒立は静かに行う“など)

○「できた!」の基準はどのようなものだったのか。基準をクリアしてから次の技へ…とするとよいだろう。

○GIGA 端末の活用として、自分の今の状態を見る際に使えるとよいのではないだろうか。

★子供たちに技のポイントを伝えてはいたが、意識し続けるというところまではいっていなかったかもしれない。マット運動の関わり合いや伝え合いを他の教科や学習にも生かしてほしいと考えて授業を進めてきた。



3年生「高跳び」



5年生「マット運動」

指導講評：上谷 圭 先生(川崎市立小学校体育研究会助言者、川崎市立宮崎台小学校総括教諭)

<3年 高跳び>

- ・高跳びの技のポイント(3~5歩程度の短い助走・踏み切り足を決める・上方に・強く踏み切る・高く跳ぶ・膝を柔らかく曲げて、足から着地)を指導したり伝えたりする際には順序を大切にしたい。「膝を柔らかく曲げて足から着地」を最初に指導していくことに同感。(安全面への配慮)
- ・高学年「走り高跳び」との違いや系統性を教師が知っておくことで、「全員に身に付けさせたいことは何か」「上手な子はどう導いてあげればよいのか」がわかり、指導に生かすことができる。
- ・「本時目標」=「今日の最大の目的」であり、子供たちは「よく跳んでいた!」と感じた。
- ・場は高さではなく、課題によって分けるとよい。(強い踏切の場・リズムに乗って跳ぶ場 など)
- ・「1・2・1・2・3!」のリズムは大事だが、必要な段階の子供ばかりではなかった。リズムを意識することによってぎこちない動きになっている子もいたので、利き足で上方に跳ぶことや強い踏切ができて、もっと跳びたい場合により意識していけるとよいのではないか。
- ・高跳びのポイントは、子供にとって必要な順番を、教師が知って指導するとよい。
- ・タイムシフトカメラは、黙々と取り組む子供にとって有効。しかし、課題解決には、教師が見取り具体的なアドバイスをすることが必要。
- ・ゴム紐の工夫は安心して取り組めていてよい。練習と記録挑戦は同じ条件になるようにする。(踏切板)

<5年 マット運動>

- ・高学年の技として示されているものは種類がとても多いが、学習指導要領解説(P.123)には「中学年で学習した基本的な技を安定して行ったり、その発展技や更なる発展技に取り組んだり・・・」とあるので、まずは中学年の技を安定させることを目指すとよい。「安定」とは「何度もできること」と考える。
- ・めあて学習において、短い言葉での伝え合いはとてもよい。これは、技ができるようになる(目的)のための手立て(手段)であり、「伝える」ということは、「他の教科や学習に生かして」ということにつながる。
- ・今回の構造=①各技のポイントをおさえる(わかる)→②自分の課題解決、友達との見合い(できる)、のために必要なこととして、やはり技の安全性は大切。発展技などの難しい技に目を向けるのではなく、技が綺麗にできることに価値を見いだすことを子供たちに伝えるとよいだろう。
- ・「技のポイント」を子供がわかっていることが大切。ラミネートして(手元に置いて)「比べてごらん」など。
- ・「見る位置」も大事。「どこで」「何を」見るとよいのかを子供たちと考えたり、教師が伝えたりするとよい。
- ・「友達が見てくれたからできた!」という感覚を味わうことで、「じゃあ次も・・・」となっていく。教師は子供同士をつなぐ役目である。「何(課題)を見てほしいの?」「(友達の動きを見て)どうだった?」など)
- ・子供の実態、目指す子供の姿、体育の目標(目的)から手立て(手段)を考えるが、教師の実態によっても手立ては変わる。教師が「手本」をできなくても、「知っている」「伝えられる」ことが大切である。
- ・体育を通して学ぶべきことは汎用的な学びである。学級経営とも関わるもので、小学校の教員ならではできることだと思う。また、虹ヶ丘小は単級なので、なおカリキュラムマネジメントしやすいだろう。

担当：中島 真知子(柿生小) 文責：本田 智仁(岡上小)